



【お知らせ】

29. 10. 30

統合幕僚監部

日米韓参謀総長級会談プレス発表

統合幕僚長河野克俊海将は、米統合参謀本部議長ジョセフ・ダンフォード大将の招待を受け、10月30日（日本時間）、米太平洋軍司令部において韓国合同参謀本部議長チョン・ギョンドゥ大将とともに3か国による参謀総長級会談に参加した。

同会談には、米太平洋軍司令官ハリス大将、在韓米軍司令官ブルックス大将及び在日米軍司令官マルティネス中將も参加した。

日米韓の参謀総長級による本会談は、2014年7月以降5回目であり、北朝鮮の度重なる挑発を抑止し、核・ミサイルの脅威に対応するという観点及び北東アジアの平和と安定を促進するという観点から日米韓3か国の防衛協力について議論した。

3者は、北海道上空を通過した2発の弾道ミサイルを含む北朝鮮による度重なる弾道ミサイルの発射、核実験等について意見交換を行い、これらの行為が国連安保理決議の深刻な違反であることを再確認し、かかる北朝鮮の核・ミサイル問題に対し引き続き緊密に連携していくことで合意した。

3者は、北朝鮮の核・弾道ミサイルの脅威に対処するため、情報共有と即応態勢を含む3か国による様々な協力について議論した。また、北朝鮮が「地域及び国際社会の平和と安全を損なう無責任な挑発行為を慎み、破壊的で無謀な大量破壊兵器開発を放棄すること」を求めた。

ダンフォード統合参謀本部議長は、我が国及び韓国を防衛するとともに、通常兵器、核兵器及び弾道ミサイル防衛を含む米国のあらゆる軍事力をもって担保される拡大抑止に対する米国の揺るぎないコミットメントについて再確認した。

3者は、地域の平和と安定を強化するため、共通の安全保障問題に対し、さらなる協力を継続していくことで一致した。



日米韓参謀総長級会談